那須塩原市議会　「敬清会」

行　政　視　察　報　告　書

視察期間：平成２９年６月２７日（火）～６月２９日（木）

Ⅰ　視察日：６月２７日（火）
　　視察地：北海道沼田町
　　内　容：「沼田町農村型コンパクトエコタウン構想」について

Ⅱ　視察日：６月２８日（水）
　　視察地：北海道東川町
　　内　容：「東川スタイル」について
　　「里山と生きる」について
　　「君の椅子」について

Ⅲ　視察日：６月２９日（木）
　　視察地：北海道剣淵町
　　内　容：「君の椅子」について
　　「絵本の里づくり」について

参加議員：　相馬　義一　　玉野　宏　　大野　恭男

北海道沼田町

・沼田町農村型コンパクトエコタウン構想について

視察地　沼田町役場にて

視察日　平成 29 年 6 月 27 日

沼田町は、明治 27 年富山県人の沼田喜三郎氏が 18 戸の農民と開拓のため移住その後も移住者が続き農業が主要産業となった。昭和 5 年には、豊富な地下資源が見つかり炭鉱が本格操業し、また私鉄の留萌鉄道も開通し炭鉱産業は農業と並ぶ基幹産業として町の発展を促した。しかし昭和 44 年に 3 か所あった炭鉱すべてが閉山に追い込まれ、人口が激減の一途をたどり始めたことから、町は農業基盤の充実に力を入れ、昭和 53 年に農水省から農村総合整備モデル事業が実施計画地域に選定され、以降水稲を中心に畑作・花栽培等の振興を図った。特に路地トマト栽培が盛んで町営のトマトジュース工場で、現在特産加工品としてトマトジュースを製造したものを視察時にいただきました。また、沼田町産のトマトが、本市のカゴメ工場にも納品されているとのことです。一方豪雪地帯であることから、雪を新エネルギーとして米の低温貯蔵施設や公共施設の冷房用に利用し、捨てられる雪を 1 か所に集めて「雪山センター構想」として新たな分野へも取組んでいました。

さて、沼田町には北海道厚生連（ＪＡ）病院が運営されていましたが、毎年約 2000 万円弱の赤字が発生、問題になりました。平成 19 年には 11～12 億円の累積赤字に上り、そこで厚生連と町で協議した結果、平成 19 年度以降から赤字分については町で負担することになり予算計上が厳しくなった。厚生連側は町にコンサルタントの受け入れを申し出たが町長は、町民と行政で考える方向を示した。小さな町では行政がすべてを行うことはできないことを町民に問いかけ、住民主体で自分らしく暮らし続けられる町づくりを提案、平成 25 年「沼田町医療・福祉体制の今後を考える町民懇談会」を設置、病院を規模縮小し、診療所へ変更建設・医師の確保について提案説明をした。しかしこの懇談会では、今後の沼田町を考えたとき医療・福祉だけでなく住宅や買い物移動等、小規模自治体の様々な課題に対応した「まちづくり」を総合的に検討する必要があるとの意見等があり、そこで町長は「まちの幸福論」の著者である山崎亮氏を知り、彼のフェイスブックに投稿したことから山崎氏と出会い沼田町の今後について相談し、山崎氏の協力を得て「沼田町農村型コンパクトエコタウン構想」の策定に至った。

構想内容の 1 つ目医療福祉部門では、旧沼田中学校跡地を活用し全体の将来像（イメージ）を策定しその一部に地域密着多機能型総合センターを建設（現在建設中）医療・福祉の充実を図る。このセンターは全体の半分が厚生クリニックスペースとし医療機能・ヨガ・太極拳等の出来るホール、また青空マルシェ等のスペース。残りの半分は地域安心センター・デイサービスセンタースペースとし介護施設としての機能と暮らしの保健室やラウンジ・なかみち・健康測定・絵本の読み聞かせ・紙芝居等の多世代交流スペースとなっておりこの 2 つ全体が医療・福祉・子育て一体となった町の施設となっている。

2 つ目の買い物については、ＪＡの施設の一部を間借りし改装、スーパーを配置し町民の買い物の利便性を図った。またこのスーパーは、町・ＪＡ・商工会の 3 つが一体となって会社を設立運営しています。
3 つ目の住宅については住宅を建設・改築時にそれぞれ補助金制度を設けた。
4 つ目の移動については、デマンドバスを運営し町民の移動手段として利用されている。これらの事業を一体とした「沼田町農村型コンパクトエコタウン構想」を推進し町民のサービスに努めている。この事業については町長が先頭に立ち国へ、または山崎氏へ数多く足を運び実現したそうです。人口の少ない小さな町の事業でありますが、私どもの行政視察に際し、町長自ら町の今後の在り方について熱くご教授を頂きましたことに感謝申し上げます。

北海道東川町

・東川スタイル・里山と生きる・君の椅子について

視察地　北海道東川町役場

視察日　平成 29 年 6 月 28 日

・東川スタイル・里山と生きるについて

松岡市郎町長、竹部修司議会事務局長より歓迎のあいさつを受ける。（研修内容を説明していただいた各氏の名刺交換を参照されたい）主産業は米と野菜の出荷であり、畜産業はほとんど無い、大雪山からの融水で数多くの滝があり日本の滝名選に入っているとのこと、町内には国道が無い、鉄道が無い浄水場が無い、日本一の町の価値は農村の空間、広さであり、富士山が日本一の高さ、大雪山は広さを誇りにしている。このため新しく建設した小学校は平屋建て長さ270m、大雪山の展望を望めるよう場所を選定し、町内中心地より移したとのこと。校舎の外装、内部、内装を拝見し空間が広いこと広い図書館、体育館など、町民だれでも利用でき特定の時間に開放されている。体験農園、東川ゆめ公園、地域交流センターとつながっている。

住宅地造成は、20 戸前後に抑え、各戸毎に植樹、壁材、色、屋根等、景観を大事にしているとのこと。旭川市に近いため子育ては東川が良いと若者たちに評価され人口の増は北海道三つの中に入っているとのこと。人口のカウントは

１．　定住人口、人口のダム機能を高める、転出しないですむまちづくり。

２．　一次移住旭川空港まで 15 分、ハブ機能を生かし、イ. 写真文化　ロ. 大雪山観光・体験
（モンベルショップの直営店があり 6 年前よりスピードアップされているとのこと。）　ハ. 家具、デザイナー、作家の集まる町　二. 日本語学校、町内中心にあった小学校２階年間 200 人が学ぶ。

３．　応援人口「ふるさと納税」ではなく「ふるさと株主」という想い東川町への投資（寄付）によって株主となりまちづくりに参加する制度である。１口１万円。

写真文化は一村一品運動におきたころの「物」ではなく「写真」とし 1985 年 6 月「写真のまち」を宣言、写真文化を核とした街づくりを推進しており今年 11 月映画「写真甲子園」が全国公開される。今年の「写真甲子園」には全国より 18 チームが来るとのこと。東川町を体験して地方創生が地域創生に移っていることを感じた。東川町「安定移住促進政策」資料を参照されたい。

・君の椅子について

元北海道副知事で旭川大学客員教授をされた磯田憲一氏のゼミの学習で学生たちに「誕生する子供を迎える喜びを、地域の人たちと分かち合いたい」と発言。東川町長松岡市郎氏が共鳴し町内の家具製造者に相談、「君の椅子ひがしかわ実行委員会」が組織されたこのプロジェクトには、剣淵町、愛別町、東神楽（ひがしかくら）中川町、長野県売木（うるぎ）村が入っている。木工のまち旭川の家具、旭川市に当初このプロジェクトが持ち込まれたが、椅子 1 脚 3 万円×出生数を毎年続けるには財政上困難と旭川市は参加しなかったこと、東川町では毎年誕生する約 50 人の赤ちゃん宅にプレゼントされている。毎年有名なデザイナーにデザインをお願いし、東川町の家具工房で製作されている。市販はされておらず、「君の椅子」会員に加入の方のみ販売される。東川町では 2006 年より取り組み 25 年度「君の椅子」事業費 2,551 千円、29 年度 3,315 千円この事業はすべての住民が知っており、みんな楽しみにしているとのこと。椅子の裏側に通し番号、名前、生年月日が刻印され、まさしく「ぼくわたしの椅子」です。東川に住む人々のつながりや絆が強くなっている。東川町役場入口左側には歴代の「君の椅子」が展示されている。

北海道剣淵町

「君の椅子」・「絵本の里づくり」について

視察地　北海道剣淵町役場　絵本の館

視察日　平成 29 年 6 月 29 日

剣淵町は明治 32 年に剣淵村外３カ村戸長役場が剣淵村に置かれ、屯田第 3 大隊本部の設置と共に屯田兵 337 戸が入地し、開拓がはじまりました。119 年の歴史があります。現在の人口は 3,231 人（平成 29 年 4 月現在）、世帯数は 1,528 世帯となっており 65 歳以上の町民は 1,241 人で高齢化率が 38.41％であり、高齢化が進んでいる状況である。（年間 15 人が誕生して、50 人がお亡くなりになっている。）

剣淵町は、北海道の中央よりやや北に位置しており東西 10.8 ㎞、南北 12.6 ㎞、士別市と和寒町と接しており面積は 131.20 ㎢であり名寄盆地の南部に属しています。

また、交流事業で 2011 年 3 月 11 日以降、福島県須賀川市の小学生（バスケットボールチーム）を夏休みを利用して民間を利用し受け入れているとのこと。当市においてもこのような事業を積極的に実施していただければと思います。

「君の椅子」プロジェクトは磯田代表の勧めで「新しい生命の誕生の喜びを地域で分かち合いたい」という想いを込めて旭川大学大学院のゼミから始まったとのこと。このプロジェクトは 12 年目を迎え「サントリー地域文化賞」の受賞をはじめ多くの励ましをいただきながらゆっくり、少しずつ歩んでいるとのことです。はじめは、2006 年東川町からスタートした取り組みは、その後剣淵町、愛別町、東神楽町、中川町、2015 年には長野県売木村まで広がっているとのこと。売木村においては、この事業を始めてことによって年間 1 人しか誕生しなかったお子様が、2016 年においては 7 人誕生したとのことです。また、地域の枠を超えて個人でも参加できる「君の椅子倶楽部」への関心も高まりつつあるとのことです。製作費については 1 脚 3 万円、個人購入の場合は、4 万 5 千円とのことです。

大きな街だからできること、小さな街だからできることがあります。それぞれが工夫して地域のつながりが希薄になっている現在、知恵を出して何かに取り組む必要性を強く感じました。

現在の取り組みとして、「君の椅子贈呈式」を絵本の館で年 4 回実施しているとのこと。プレゼンターは自治会長（町内会長）、町長、教育長、絵本の里を創ろう会長であり、生後 100 日前後に複数のご家族を迎えて実施しているとのこと。年間出生数は、約 20 人とのこと。プレゼントされる椅子には、座面にお子様の名前、生年月日を刻印してあり、毎年デザインが変わります。「君の椅子広域連携事業」に参画しており、参加自治体は北海道内 5 町、北海道外 1 村である。毎年モデルの発表会を開催しており、記念植樹、交流会を実施している。また、3.11 の震災の日に誕生されたお子様に贈呈もしているとのことです。那須塩原市におきましては年間約 1,000 人のお子様が誕生されるので、同様のことを実施するのは現実的には難しいかもしれませんが、少子化の時代何か他自治体で行っていない魅力のある施策を考えていくべきであると思う。

「絵本の里づくり」について

絵本の館旧館は、平成 3 年に当時のふるさと創生資金の一部（改修費 2500 万、絵本・原画購入費 1600 万円）を活用して昭和 19 年に建造された公民館に転用されていた旧役場庁舎を改修してオープンした。その後、建物の老朽化が進んだことから平成 16 年に現在の場所に新築移転したそうです。バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方を基に平屋建てになっており、授乳室や多目的トイレを設けてあり、深夜電力利用の蓄熱式床暖房を採用し、内装は木や土壁のぬくもりと優しさ、また天井が高く開放的な窓からの自然採光を利用しておりとても居心地の良い空間であります。館内はぐるりと 1 周出来、わくわく感がありました。実際にお子様連れのご家族もご利用されておりお父さんがのんびり寝そべるスペースもありのどかな感じでした。入館料は無料で年間来場者数は約 32,000 人とのことでした。スタッフとして館長 1 名、教育委員会の職員さんです。その他、司書 2 名、パートタイム職員 5 名の 8 名体制で運営され、館内での読み聞かせは勿論のこと、出張でも対応しているとのこと。「剣淵絵本の里大賞」という賞を作っており平成 3 年は 142 点の作品応募がありましたが、現在は 300 点の応募があるそうです。毎年 2 月に授賞式がありその後、受賞者の方に地元小学校において講演をお願いしているそうです。また、平成 3 年より東京の出版社、約 40 件訪問して努力もしてきているとのことです。那須塩原市においても、黒磯駅前に図書館が建設されますが、剣淵町の取り組みを少しでも参考にしていただきたい。余談になるが、剣淵駅を視察してきましたが、絵本のまちらしい駅舎にしてはどうかと問いかけてみたところ、ＪＲ側が良い回答をしていただけないとのことでした。残念なことだと感じました。

最後になりますがすべての視察先において、町長自ら懇切丁寧に対応してくれたことに感謝いたします。